

平成26年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成27年 4 月 13 日

研究・研修課題名	手指衛生キャンペーン「ゴージョー名人チャレンジ」の開催
研究・研修組織名（所属）	手指衛生キャンペーン（感染対策室）
研究・研修責任者名（所属）	坂根圭子（感染対策室）
共同研究・研修者名（所属）	山口修平、廣瀬昌博、栗屋幸一、西村信弘、森山英彦（感染対策室）

目的及び方法、成果の内容

①目 的

院内感染対策として、手指衛生が大変重要であることは周知の通りである。手指衛生の方法として、石けん流水手洗いと、アルコール手指消毒の2方法があり、石けん流水手洗いは物理的に手の汚染を除去し、アルコール手指消毒は殺菌効果を示す。アルコール手指消毒は、石けん流水手洗いより容易に手指衛生が可能で、手指衛生のスタンダードとされている。

しかし、当院は一般病棟においてはアルコール手指消毒剤の使用量が少なく、石けん流水手洗いを好む傾向がある。昨年度の施設間相互チェックでも、アルコール手指消毒の不足を指摘された。今回、手指衛生キャンペーンを開催することで、アルコール手指消毒の効果を視覚に訴え、アルコール製剤による手指消毒の意識向上のための契機となることを目的とした。

②方 法

1. ICT会議、感染対策室だより及び部署への通知文により、手指衛生キャンペーンについての広報を行った。
2. 全職員を対象として、キャンペーンのチャレンジャーを募集した。チャレンジャーは上限50人とし、2月25日から3月9日まで募集を行い、チャレンジ実施は3月9日～3月19日の期間で行った。
3. チャレンジャーの部署に出向き、アルコール手指消毒剤（ゴージョー®）にて約20秒間手指消毒を実施してもらった。主に手指の皮膚表面に付着した菌を捕集するパームスタンプ法で手形寒天培地に利き手でスタンプを行った。
4. スタンプ方法は、培地に爪先から押し当て、つぎに、手掌全体を5秒間培地に押しつけた。村上ら¹⁾の研究報告より、手掌を押しつける圧による検出菌数の有意差はないことから、手掌をまんべんなく接着させ、かるく押し当てるようにしてスタンプを行った。チャレンジャーのスタンプ手技が同一となるように説明を行い、研究責任者の目前でスタンプ実施した。
4. 孵卵器にて37℃で24時間～48時間培養し、その後、培地上に発育したコロニー数をカウントした。
5. コロニー数が少ないチャレンジャーをゴージョー手指消毒手技優秀者として、3月24日のICT会議で表彰した。

③成 果

応募のあったチャレンジャーは36名であった。チャレンジ応募部署は、A7病棟、B6病棟、B7病棟、C5病棟、C6病棟、C7病棟、C8病棟、C9病棟、外来1階、栄養治療室、MEセンター、薬剤部、検査部、看護部放射線部、リハビリテーション部、外部委託部門であった。

部署からのチャレンジャー2人の場合は2人部門としてコロニー数の平均値を求め、部署別対抗とした。チャレンジャーが1人の部署および個人で応募の場合は、1人部門と個人部門としてコロニー数を競い、各々少ない方から金賞、銀賞、銅賞として表彰した。また、コロニー数0の職員に対しては、特別賞として表彰した。(表1参照)

ほとんどのチャレンジャーは、常に石けん流水手洗い後に、アルコール手指消毒を行うとの意識があり、アルコールだけの手指消毒には抵抗感を示した。しかし、結果の提示により、アルコール手指消毒だけで十分殺菌されていることが理解された。

コロニーの菌同定は行わなかったが、*Bacillus* 属が検出された職員が複数みられた。アルコール手指消毒がスタンダードではあるが、芽胞菌はアルコール抵抗性があるため、石けん流水手洗いを適度実施し、通常はアルコール手指消毒をスタンダードとして行う方が効果的と考えられた。

今回、応募のあった部署はアルコール手指消毒薬使用量が比較的多い部署であった。今後も手指衛生キャンペーンを継続し、より多くの職員が経験でき、意識付けとなるようにしたい。また、当初の計画では昨夏ごろにキャンペーンを行う予定であったが、業務上の都合により年度末の開催となったため、キャンペーン終了後の効果の評価ができなかった。引き続き、アルコール手指消毒剤使用量のモニターを行い、新年度に評価を行いながら次回のキャンペーンを企画する予定である。

表1 チャレンジ結果

順位	2人部門	1人部門	個人部門
金賞	B7病棟	看護部放射線部 リハビリテーション部	リハビリテーション部
銀賞	B6病棟	該当なし	該当なし
銅賞	薬剤部	該当なし	該当なし
特別賞	コロニー数「0」のチャレンジャー		

表2 検出コロニー数

コロニー数(個)	チャレンジャー数(人)
0	5
1	4
2	1
3	3
4	1
5	1
6~10	4
11~20	5
21~50	3
51~70	5
500以上	4

参考文献

- 1) 村上和保、梅迫誠一：食品衛生分野におけるパームスタンプ検査の実施方法に関する検討，日本環境感染学会誌 28(1),29-32,2013